

災害拠点病院に所属する 災害支援ナースの自施設での取り組み ～コメディカルを含めた院内研修の開催～

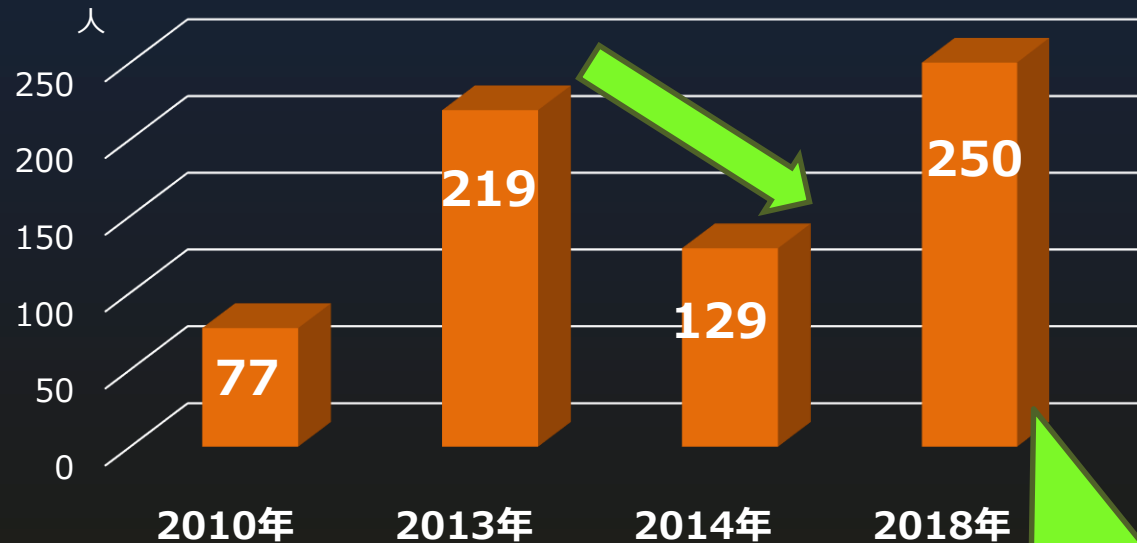
○山本 牧子 喜多川 千種
(赤穂市民病院)



はじめに

災害支援ナースとは
被災した看護職の心身の負担の軽減と、被災地で適切な医療と看護を
提供する役割を担う看護職のこと

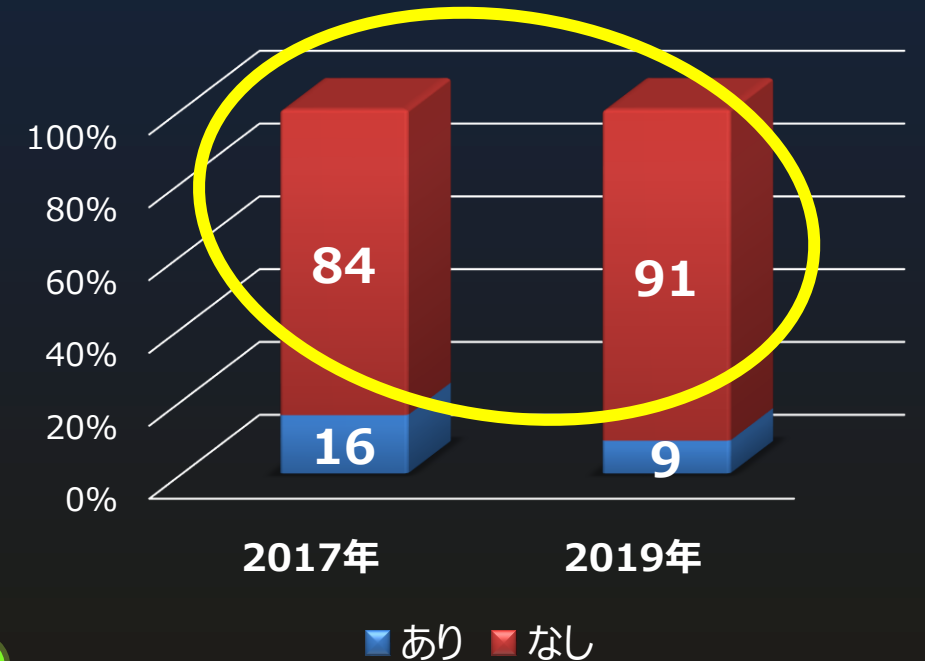
「災害支援ナースの登録者の推移」



兵庫県看護協会

西播支部59名
赤穂市民病院4名

「災害支援ナース活動経験」



兵庫県西播地区災害支援ナース交流会

当院の概要

病床数：360床

1996年（平成8年）

災害拠点病院の指定を受ける

DMAT2隊保有

（医師2名・看護師5名・業務調整員3名）

災害支援ナース（4名）



兵庫県

18の災害拠点病院



活動内容

～研修で伝えたいことを検討～

- 自分たちが研修や訓練で得た知識を提供し、一緒に考える機会にしたい
- 発災時の自施設の状況をイメージしてもらい、備えの必要性に気付いて欲しい
- 災害拠点病院である自施設の施設機能・備蓄の現状を知ってもらいたい
- 既存のマニュアルを使用して、実践に役立つ机上訓練を実施
- 各部署が自部署の特性を組み込んだアクションカードの作成に取り組む
- 他職種にも参加案内を配付し、病院全体の知識と意識の向上に繋げる
- 研修はDMAT看護師にも協力を依頼する

活動内容 ～1年間の活動方針決定～

目的：災害支援ナースの知識向上と、自施設で役割を果たす場の提供

研修テーマ：災害拠点病院に勤務する看護師として、災害について
知識と意識の向上を図る

～災害時に動ける看護師になるために～

研修対象：全看護職員

他職種（検査技師・放射線技師・薬剤師・栄養師・リハビリ・臨床工学士）

研修開催期間：2018年7月18日～2018年1月18日

評価方法：看護部教育委員会作成の調査票で評価

活動内容 ～研修内容～

1) 災害看護概論

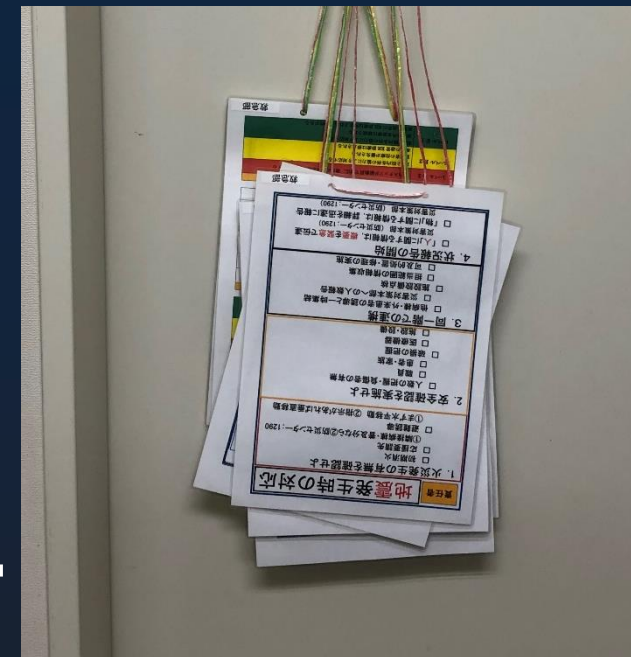
2) 自施設の災害発生時の役割と備えについて

災害発生時の情報伝達についての机上訓練

3) 既存のアクションカードを使用した机上訓練からの

気づき共有

4) 自部署の特性を組み込んだアクションカードの作成



結果

参加者	第1回目	第2回目	第3回目	第4回目
看護師	58人	50人	55人	54人
他職種	9人	7人	7人	3人
研修内容が今後の 看護実践に役立つ 内容だと思った	86.2%	100%	95%	100%

他職種：検査技師・放射線技師・薬剤師・栄養師・リハビリ・臨床工学士

他職種と情報共有する
機会になった

考える機会となった



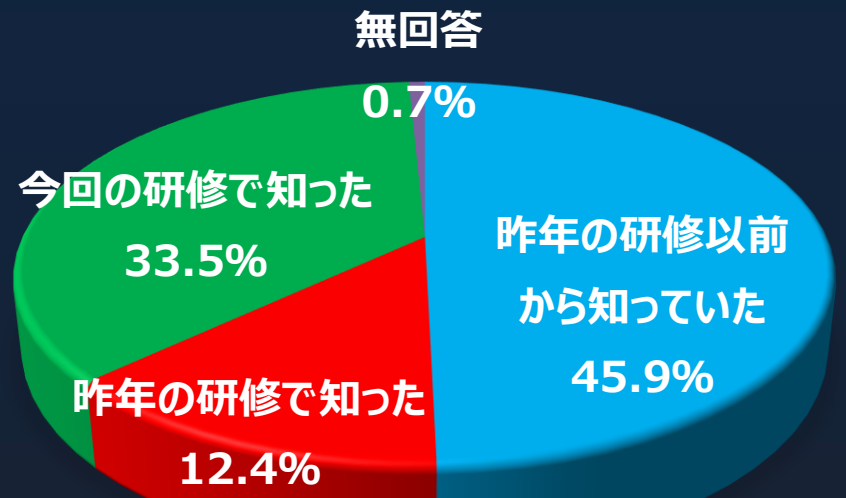
備えの必要性に気付いた

不安になった

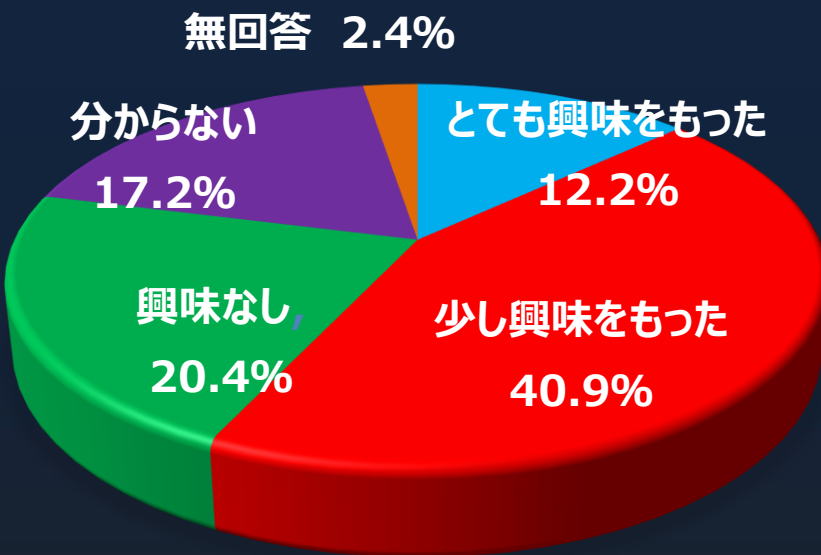
結論

1. 研修開催は院内全体の災害意識向上に繋がった
2. 他職種への参加は、発災時の院内全体のイメージ化に繋がった
3. 取り組み継続が更なる意識向上に繋がることが期待できる
4. 研修開催までの過程は、院内災害支援ナースの交流の場となった
5. 研修開催後の調査結果は、災害支援ナースのやり甲斐に繋がった

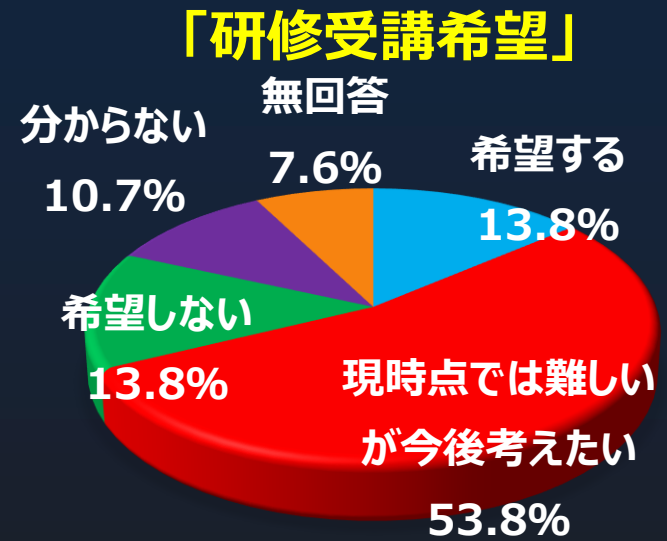
「当院の災害支援ナーズの存在をいつ知ったか」「災害支援ナーズに興味を持ったか」



45.9%が研修で知った

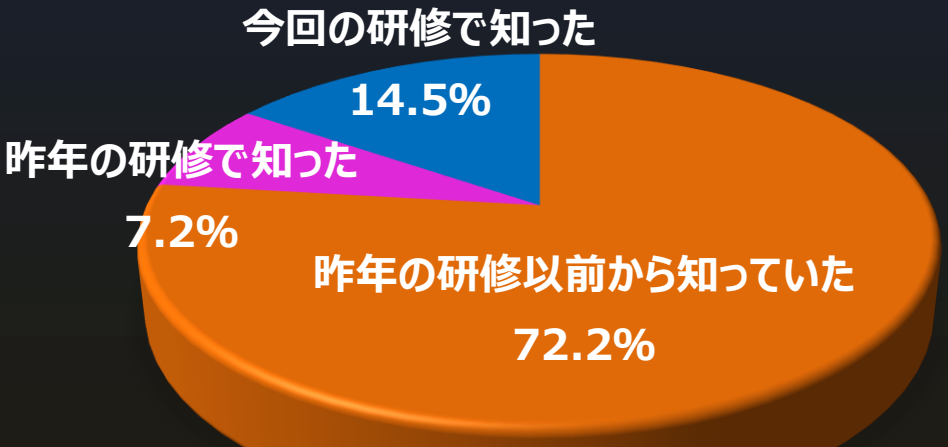


53.1%が興味を持った中で



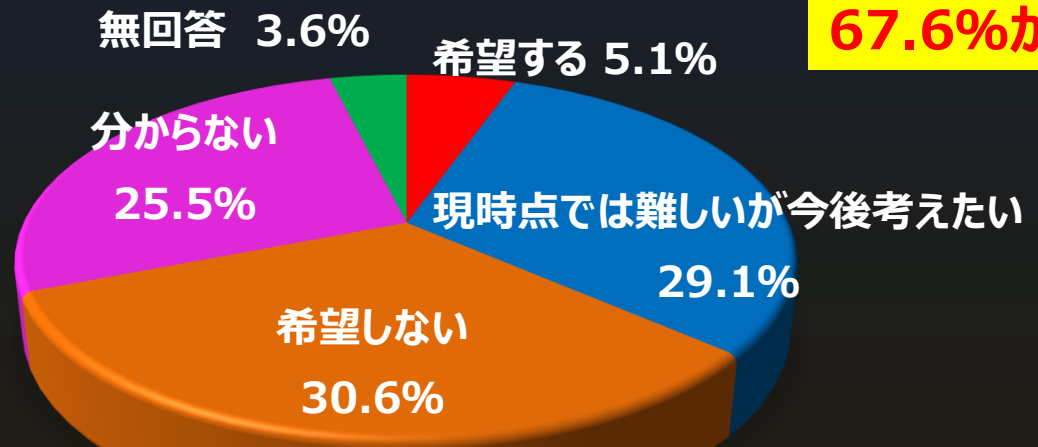
67.6%が受講検討

「当院のDMATをいつ知ったか」



21.7%が研修で知った

「研修受講希望」



34.2%が受講検討